

令和3年度 中城ごさまる科 自己評価の結果

教育課程特例校 中城村立津覇小学校

1 目的

本村の幼小中学校において、地域の歴史・文化に係る地域素材を積極的に教材化し、特に本村が有する世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つ「中城城跡」とその城主「護佐丸」を素材に取り上げ、「中城ごさまる科」の授業とともに本村の文化を学ぶことで、中城の歴史と文化、世界遺産を有する本村について触れ、郷土の理解を深めることや郷土への誇りと愛着を育み、自らの目標に向かって学び続ける児童の育成を目指す。

2 概要・実績

- ・本事業は、村内全ての小学校を教育課程特例校として申請し、平成26年度から「中城ごさまる科」を導入して8年目を向かえる。副読本・指導書・教材DVD等を作成し、故郷の歴史・文化・自然を通じた学習を行う。
- ・中城ごさまる科の児童アンケートでは、「地域の歴史を学ぶことで、日本史など広く歴史を学ぶ意欲の向上に繋がった(93%)」「自分の住む町に親しみがある(95%)」「自分で調べたことを自分の言葉で発表できた(92%)」と回答し、教師の振り返りアンケートでも「大変よかった」「よかった」との肯定的意見(98%)だった。

3 村内小学校の共通した効果及び成果

- ・年4回の中城ごさまる科の担当者を対象とした研修を実施し、各校の取り組みの方向性と学習進度を確認できたことで、学校が主体的に取り組むことができた。
- ・学習内容を新学習指導要領に沿った内容に整理し、文部科学省へ変更手続きを行った。そのことによって、学習内容が6年間を通して系統化されて学習しやすくなった。
- ・指導主事が各学校へ訪問し直接助言ができたことで、中城ごさまる科の学校間差がなくなり、中城ごさまる科の年間指導計画の見直しや、「中城教育の日」での発表方法等の情報交換がスムーズにできたことで、授業改善に生かすことができた。
- ・三学期に成果報告会を実施し、子供達の学びを披露できたことで、「中城ごさまる科」の取り組みの理解が深まった。

4 児童の興味・反応、保護者の反応など

【1年】

- ・自分の身近な人々や場所について興味を高めるために、段階をふまえ、中城グスクへの見学へむけて取り組んだので伝統的な石積み技法の違いや特徴をよく理解していた。
- ・中城グスク見学を通して、見晴らしの良さなどから城跡の立地のよさなどを理解することができた。
- ・絵本の読み聞かせや見学を通して、昔の人のくらしや沖縄県の他の城跡、歴史的人物についての興味が広がる児童がいた。

【2年】

- ・学習のまとめとして、護佐丸の人生を5～7歳の頃、17歳～25歳の頃、25～50歳の頃、護佐丸の最期の4つに分け、グループで護佐丸のポスター作りを行った。
- ・子ども達が護佐丸のイラストを描いた。護佐丸がやったことを学ぶうちに、りりしい護佐丸の顔を描くようになっていき、子ども達は護佐丸に愛着と誇りを感じていた
- ・中城ごさまる科の学習をがんばりノートに記録し、子ども達が学習した内容をお家の人へ話すようになった。お家の人からも「続きが知りたい。」「知らないことがあって勉強になった。」とコメントがあり、親子でも楽しみながらごさまる科の学習ができた。

【3年】

- ・城作りについて興味関心が高まった。
- ・ワークシートを活用することで、調べたり、まとめたりして、ごさまるや、中城村についてもっと知りたいと思う子が増えてきた。
- ・コロナ禍で、授業参観もなく、発表する機会がなかった。

【4年】

- ・中城ごさまる科において、世界遺産中城城跡を守る取り組みや、中城城跡をいかす取り組みについて学習することを通して、関わる多くの人々の努力や工夫、願いについて知ることができた。
- ・社会科「私たちの県のまちづくり」とも関連づけながら、中城城跡をいかした中城村の村づくりについて意欲的に考え、取り組むことができた。

- ・中城城跡を守る取り組みとして副読本で紹介されている「発掘調査」や「城壁の修理」をする方々から実際に話を聞きたいが、調整方法が分からず実施できていない。

【5年】

- ・世界遺産「中城城跡」を守り受けついでいく人々の思いを知ることで、郷土に対する興味・関心が高まった。
- ・脚本の中から感動したセリフや好きな言葉を見つけることにより、その時の護佐丸の想いや中城村に生きる人々の願いを考えることができた。
- ・音読劇を練習し話し合うことで、郷土に対する理解が深まり中城村のよさを見つめ、これから自分たちが出来ること、やりたいことについて考えることができた。
- ・コロナ感染予防対策という中で、「音読劇」を低学年や保護者に発表することができなかった。教室内の実践にとどまり、自分たちの中での成果はあったが、他の人々へ伝えるということにおいては課題となった。

【6年】

- ・琉球の歴史と日本の歴史をつなげて考える児童が増えてきた。
- ・尚巴志ビデオを工夫して視聴することで、具体的に人物や時代背景をイメージすることができていたことはよかった。
- ・新聞の書き方が上手になった。
- ・1学期に中城村内についての歴史、史跡などの資料を集めることと、中城護佐丸歴史資料館の見学を行うことで興味・関心を持たせる必要があった。
- ・6年生の担任で計画から考えるのは大変なので、見学・体験プログラム等の見本があると助かります。
- ・参観日がないため保護者向けの発表会ができなかった。

5 学校関係者の評価

- ・年4回の中城ごさまる科の担当者を対象とした研修を実施し、各校の取り組みの方向性と学習進度を確認できたことで、学校が主体的に取り組むことができた。
- ・学習内容を新学習指導要領に沿った内容に整理し、文部科学省へ変更手続きを行った。そのことによって、学習内容が6年間を通して系統化されて学習しやすくなった。
- ・指導主事が各学校へ訪問し直接助言ができたことで、中城ごさまる科の学校間差がなくなり、中城ごさまる科の年間指導計画の見直しや、「中城教育の日」での発表方法等の情報交換がスムーズにできたことで、授業改善に生かすことができた。
- ・3月に、成果報告会を実施し、子供達の学びを披露できたことで、「中城ごさまる科」の取り組みの理解が深まった。

6 【課題と対応策】

(課題) 教職員の転出などにより、「中城ごさまる科」の理解に時間がかかる。

対応策→教育委員会による「中城ごさまる科」の研修を各校で実施し、更なる充実を図っていく。

(課題) 本事業スタート時の状況と違い、協力団体が減ってきている。

対応策→「中城ごさまる科」の教材本を改定し、学校が主体的に取り組めるよう実施方法の見直しをさらに進めていく。